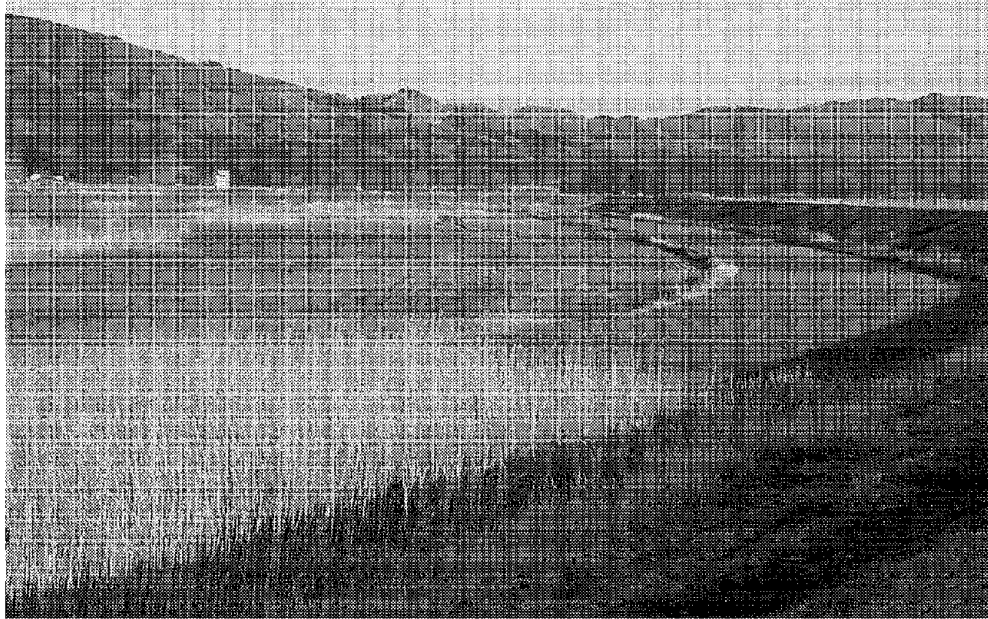


角田・阿武隈川河川敷 グライダー発着場に

航空公園整備へ構想

県航空協
会



「東北航空公園構想」が持ち上がった角田市佐倉の阿武隈川河川敷。奥羽山脈と阿武隈山地の中継地として、グライダーには好条件がそろっているといふ

滑走路やクラブハウス

来月デモ兼ね試乗会

県航空協会(佐藤亮吾理事)

市長は、角田市の阿武隈川河川敷にグライダーの発着場を整備する「東北航空公園整備構想」を打ち出した。奥羽山脈と阿武隈山地の中継地にある角田の地理的条件を生かし、世界大会も開催する航空スポーツのメッカをつくる計画。建設省から用地使用の許可を既に得ており、五月四、五の両日にデモンストレーションを兼ねたグライダー試乗会を予定している。

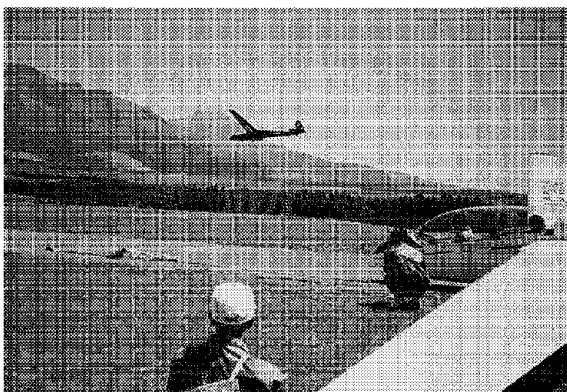
構想は、角田市佐倉の阿武隈川の河川敷に、滑走路二本と格納庫、クラブハウスなどを建設。サイクリングロードやカーニバル場も設け、アウトドアの複合センターにする計画で、整備事業費は十億円と試算している。

大分県の久住高原にある「久住滑空場」。九州各大学の航空部の練習場になっている。「角田の発着場は世界大会も開ける」と県航空協会のメンバーは意気込む

県航空協会の大友宏之専務理事は「河川敷が広がり、穏やかな気候の角田は、グライダーにとって願ってもない条件がそろっている」と話す。国有地十二畝は、既に建設省が使用を許可している。

もっとも十億円の事業費をどこが負担するのかを含め、「航空公園」はあくまで構想の段階だ。

大友専務理事は十三日、佐藤清吉角田市長を訪れて、オンリーワンの施設ができれば、まちおこしや地域活性化につながる(佐藤忠義部長と歓迎。試乗会の参加者を募集している。対象は小学四年から中学生までで、参加料は二千円(保険料込み)。問い合わせは角田市商工観光課0224(63)211へ。



支援を要請。佐藤市長は「角田をイメージアップする素材になるかもしれない」と関心を示した。その一方で、角田市では一月、グライダーの墜落事故が起きており「安全性は確保できるか」と繰り返し質問。大友専務理事は「グライダーは空のヨット。冒険的な飛び方をしなければ、安全な乗り物です」と強調した。

県航空協会は空への理解を深めてもらおうと、角田市商工会青年部と協力して、五月四、五の両日、七機のグライダーを持ち込んで試乗会を開催する。

11へ。